



「家族の日」「は家族との絆を

深めましょう

毎年十一月の第三日曜日は「家族の日」です。さらに、その前後一週間は「家族の週間」である事を知っていましたか？生命を次代に伝え育てていくことや、子育てを支える家族と地域の大切さが再認識されるよう呼び掛けられたものです。しかし、その期間だけでなく平日頃から「家族の大切さ」について考え、何気ない日常から楽しい思い出を作りましょう。

家族の日とは、二〇〇七年に始まった日本の記念日で、毎年十一月の第三日曜日にあたります。

その前後一週間は、家族の週間とされています。

今年も、十一月二十一日が家族の日、十一月十四日から十一月二十七日が家族の週間です。

設置された

二〇〇五年に食育基本法が制定され、子育てにおける家庭の機能が見直され始めました。

二〇〇六年二月には、「家族・地域の絆再生」政務官



会議プロジェクトチームが、

少子化対策の一環としての家族の位置付け、役割の見直し、その方向を実現するための方策を提言することを目的として設置されました。

その中間報告で、『家族と地域の絆再生プラン』が検討され、家族や地域の人々が触れあう機会を増やし、相互の絆をより深めるため、毎月一週間程度を「家族の

週間」とするプランが提示されました。

その後、内閣府は、子供を家族が育み、家族を地域社会が支えることの大切さについて理解を深めてもらうために、二〇〇七年から十一月第三日曜日を「家族の日」に、その前後各一週間は「家族の週間」と定めました。



この期間を中心として理解促進を図っています。そして、十一(いい)二十(ファミリー)の語呂合わせなどから、勤労感謝の日でもある十一月二十三日を軸に調整を行なっています。

「家庭の日」運動は、一九五五年に鹿児島県の鶴田町で始まり、薄れつつある家族の絆を大切に、また休みの取れない農業従事者のために「農休日」を設けようとの企図により始まり、一九六五年頃から日本各地で制定されました。

四季折々にこんなことを心がけて

みてはいかがでしょうか？

【春】進学、進級、新しい生活のスタート！

新しい環境の中では、緊張したり、ストレスが溜まりがちになります。

心の緊張をほぐすために、花を植えたり、家庭菜園や散歩をしたりしながら家族で会話をしましょう。

また、青空の下でスポーツをしたりして、心地よい季節を家族みんなで楽しみましょう。

【夏】家族でふれあう絶好の機会！

旅行やキャンプ、海や山などに出かけ自然とのふれあいを楽しみましょう。

家族みんなで計画を立てて夏休みをおおいに満喫しましょう。

【秋】運動会、文化祭、地域の行事ももりだくさん！

学校や地域の行事への参加や美術館などに出かけ芸術の秋を楽しみましょう。

ましたが、十一月第三日曜日で決着しました。家族の日・家族の週間とは別に、独自に「家庭の日」を設けている地方自治体もあります。

概ね毎月第三日曜日とする自治体が多いですが、各家庭で都合のよい日(静岡県)としている自治体もありあります。

「家庭の日」運動は、一九五五年に鹿児島県の鶴田町で始まり、薄れつつある家族の絆を大切に、また休みの取れない農業従事者のために「農休日」を設けようとの企図により始まり、一九六五年頃から日本各地で制定されました。

また、勤労感謝の日に将来の夢を語り合うなどして、家族の絆を深めましょう。

【冬】寒い冬には、家族で団らんが一番！

鍋料理や暖かい料理を囲めば、心も体も温まります。心がけ次第で、いつでも家族のふれあいはできるのです。

毎日が「家庭の日」であつたら素晴らしいことです。暖かい家庭で育った子供は、思いやりの心や生きる力が育まれます。



大人が変われば

子供も変わる

【家庭では】

- ・子供が家で身につけたことは、生涯ずっと生き続ける
- ・自分を大切にできないければ子供を大切にできない
- ・子育ては母親の仕事とていお父さんは要注意
- ・話せば分かるとは限らないが、話さなければもつと分からない
- ・前向きな親の姿は、きっと子供に届いている
- ・これまでの常識では通用しない問題が増えている
- ・あなたの生き方が子供への最高の教育になる

【社会全体では】

- ・「ありがとう」や「ごめんなさい」などを自然にかわそう
 - ・公共の場でのルールやマナーを徹底しよう
 - ・有害な情報は、子供たちの目にふれさせないようにしよう
- (インターネットより参照)